

生徒会通信 7月



日	曜	予定
1	土	
2	日	
3	月	七夕装飾
4	火	
5	水	ソーランインタビュー①
6	木	
7	金	漢字検定① ソーランインタビュー② 県大会壮行会
8	土	
9	日	
10	月	
11	火	ソーラン集会
12	水	
13	木	地区生徒会・委員会⑥
14	金	全校交流集会
15	土	中体連県大会
16	日	”
17	月	海の日
18	火	筑北祭70日前イベント 学期末清掃
19	水	
20	木	
21	金	1学期終業式 地域への奉仕作業
22	土	夏季休業(～8月22日)
23	日	
24	月	夏季講習(3年)
25	火	
26	水	
27	木	農家見学(厚生)
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	

7月の月目標

「身の回りや 心を整えて
学期末を迎えよう」

7月は1学期まとめの学期です。学期末清掃もありますが、自分の身の回りの環境を整え、心を落ち着かせて気持ちよく夏休みに入れるようにしていきましょう。

また、7月は、本年度力を入れている、「発信・交流」として、評議員会が企画する「交流集会」や、3年ぶりに再開される「地域への奉仕作業」が行われます。仲間や地域の方との交流を深める機会として、積極的に参加してください。

《読書旬間の振り返り》

読書旬間が、6月5日(月)～16日(金)に行われました。

旬間中、新しい本に出会うことができましたか？ビブリオバトルでは会員の皆さんが、それぞれおすすめの本の魅力を紹介し合うことで、本の世界が広がりました。

また、学年代表者による全校ビブリオバトルでは、全校が集まり学習センターで行いました。8人の代表者(バトル)によるプレゼン後、聞き手の会員は、自分が読みたいと思った本に一票を入れました。投票の結果、チャンプ本は町田翔さんが紹介した「もしも刑務所に入ったら」に決まりました。

読書旬間は終わりましたが、ビブリオバトルや委員による本の紹介で、面白そうだなと思った本があったら、是非借りて読んでみてください。

学習委員長 白木 莉子

《NO チャイム週間(後半)の振り返り》

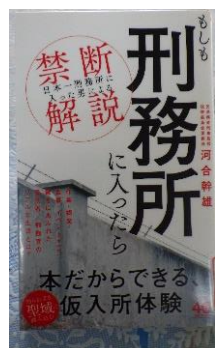
今回のNOチャイム週間(後半)では、前半の取り組みから出された「各学年の課題を改善する」という目標が掲げられていました。各クラスの課題を改善するために、クラスで互いに声を掛け合うなど協力して、とても充実した週間になったと思います。2学期もNOチャイム週間を企画していますが、1学期とは違う形で行い、より時間を意識してもらえようようにしたいと思います。

評議員長 町田 翔

チャンプ本
「もしも刑務所に入ったら」
河合幹雄

自分がおすすめする本を、読んでくることがない人に伝えることは難しかったけれど、楽しく紹介することができました。この本の魅力を全校の皆さんに伝えられて自分もうれしいです。

バトル 町田 翔



筑北祭100日前イベント

6月22日(木)に行われた筑北祭100日前イベントでは、筑北祭サブテーマの発表・ステージバック案のアンケートの説明、生徒会企画「筑中有名人」参加募集の説明が行われました。会員全員が、それぞれの役割を把握し協力し合いながら準備を進め、「革新」の筑北祭を創っていきましょう。

第66回筑北祭テーマ

革新

「新たな時代を切り拓け」

筑北祭サブテーマのアンケートの結果から、サブテーマは「新たな時代を切り拓け」に決定しました。この「新たな時代を切り拓け」のサブテーマには、コロナが緩和され、やりたいことや新しいことができるようになった今、「自分たちが行動し、新たな時代を創りだしていこう」という願いが込められています。その願いのように、新しいことに挑戦しながら、全会員と筑北祭を創り上げていきたいと思えます。

生徒会長 平田 瑛路



初代「筑中ソーラン」

「筑中ソーラン」の原点を探る 一色 保典先生 滝澤 健太先生 へのインタビュー

7月5日(水)に、「筑中ソーラン」が始まったきっかけや様子など、当時筑北中学校3学年を担当していた一色保典先生(上田第二中学校の校長先生)に、また7月7日(金)には、始まりから4年後に筑北中学校を卒業された、滝澤健太先生(生坂小にご勤務)にお越しいたき「筑中ソーラン」についてお話を伺いました。そこでお聞きした「筑中ソーランの歴史」について、一色保典先生のお話を中心にお届けします。

「筑中ソーラン」の始まりは平成21年でした。当時は1クラス40人ほど、全校生徒は約120人いたそうです。「筑北中学校の学校目標である、『心豊かに 逞しく』の『逞しく』が、生徒たちにまだ足りないのでは」と考えた一色先生は、「よきこいソーラン」の躍動感・逞しさを筑中生にも感じてもらいたいと思い、生徒会に挑戦をしてみないかと提案をしたそうです。生徒会メンバーは「やってみましょう」と、まず3年生が先頭をきってソーラン練習をスタートしました。練習の輪は全校に広がり夏休み中も有志で練習を行っていたところ、「サマーナイトフェスティバルに出てみない？」というお誘いがあり、まだ十分な演舞ではなかったですが、会員が一生懸命に声を出しながら踊る姿は、その場にいた後輩や、地域の方の心を動かしたそうです。踊っていた生徒たちも、大きな達成感を感じ、やがて1、2年生も加わり、練習にも熱が入っていったそうです。全校が1つになる本気の「筑中ソーラン」を目指し練習を重ね、迎えた筑北祭当日、雨上がりの校庭を泥だらけになりながら、力強い演舞を踊ったそうです。演舞が終わると、生徒たちは、仲間とやりきった満足感と感動で涙を流した人もいたそうです。一色先生は「その姿は筑中生の『逞しさ』そのものだった」とおっしゃっていました。

平成25年度卒業生である滝澤先生は、「先輩達がかっこよかった。率先して声を出し、引っ張っていた。」と、当時の「筑中ソーラン」への熱さを語ってくださいました。そして、私たち後輩に「コロナだから、コロナだったからと言うのではなく、新しく挑戦して欲しい。」とメッセージをくださいました。

一色保典先生のお話をお聞きして



お2人のお話を、11日(火)の「ソーラン集会」で紹介し、新たに今年の「筑中ソーラン」への思いを全会員で確認しました。

合言葉は「己の全力」

「全力」の姿を、正副隊長を中心に、これから追い求めていきます。

滝澤健太先生へのインタビュー



【編集後記】

1学期最後の生徒会通信となりました。今回の7月号は館報おみにも掲載していただくことになり、さらにたくさんの地域の方に発信することができて嬉しいです。いろいろな場所で話題にさせていただくと嬉しいです。

文責 峯村 友萌

《お知らせとお願い》

8月5日(土)に行われる、麻績村第34回サマーナイトフェスティバルでは、会員の有志による「筑中ソーラン」が披露されます。卒業された先輩方をはじめ、皆さん一緒に踊ってみませんか？もちろん見学だけでもお待ちしております。出演時間は夕方5時前後を予定しております。